

第4学年1組 音楽科学習指導案

日 時 平成27年10月27日(火) 第5校時
在籍数 男子14名 女子17名
指導者 教諭 増田和江

1 題材名 日本の音楽に親しもう

2 題材について

(1) 児童の実態

(2) 題材について

本題材では、古くから伝わる郷土の民謡を扱う。鑑賞では、リズムや声の感じに気を付けて、拍節のあるリズムの「ソーラン節」と、拍節のない自由なリズムの「南部牛追い歌」の2つの民謡を聴き比べることで、昔の人々の仕事から生まれたリズムの違いを感じ取ることができる。また、日本の民謡の歌い方の特徴も感じ取ることができる。歌唱では、日本らしい雰囲気醸し出す旋律を味わいながら「こきりこ」を歌う。旋律に使われている日本の音階に気付かせ、『ミ ソ ラ ド レ』の音でせんりつづくり』へと関連させることのできる教材である。そして、さらに日本の音階に親しむための「さくら さくら」の歌唱へとつなげていく。このように、本題材は、鑑賞や歌唱、リズム伴奏づくり、音楽づくりと様々な活動をしながら日本の音楽に親しむことのできる構成となっている。

指導にあたり、鑑賞の活動では、「ソーラン節」と「南部牛追い歌」の2つの民謡を聴き比べてリズムや拍の流れの違いを感じ取らせる。また、歌声の特徴や母音をのぼして声や旋律を揺らす歌い方などに気付けるようにする。「こきりこ」の歌唱では、鑑賞した民謡と似た特徴がないか見付けさせながら、曲の雰囲気にふさわしい歌い方を考えさせる。

そして、楽譜から五つの音に気付かせ、『ミ ソ ラ ド レ』の音でせんりつづくり』へとつなげていく。

旋律づくりでは、つくった旋律を反復、変化させたり、友達の旋律とつないだりして、まとまりのある音楽をつくれるようにする。最後に、同じ日本の音階でも、感じの違う日本の音階の雰囲気を感じ取りながら「さくら さくら」の歌唱をする。歌詞の内容から情景を思い浮かべ、美しくゆったりとした旋律にふさわしい歌い方の工夫をさせる。また、鑑賞曲の「さくらさくら」と関連付けることで、さらに日本の音楽の特徴を味わうことができるようにする。

このように、表現と鑑賞の関連をさせて様々な活動をすることで、日本の音楽に親しめるようにする。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材では、我が国の郷土の音楽に着目し、学習指導要領のA表現(1)歌唱イ、(3)音楽づくりイ、及びB鑑賞イを指導するものとする。

3 題材の目標

- (1) 郷土の音楽やその曲想に興味・関心をもち、聴いたり、演奏や音楽づくりをしたりする学習に進んで取り組もうとする。
- (2) 旋律、リズム、音階、拍の流れ、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想にふさわしい歌唱表現を工夫したり、旋律づくりや旋律の組合せ、リズム伴奏の組合せについて工夫したりする。
- (3) 日本語の発音や呼吸の仕方に気を付けて、曲想にふさわしい自然で無理のない声で歌ったり、リズムや音の組合せを工夫したりしてまとまりのある旋律をつくったりする。
- (4) 旋律、リズム、音階、拍の流れ、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付き、味わって聴く。

4 教材について

(1) 「ソーラン節」 北海道民謡

ニシン漁のときに歌われていた仕事うたで、拍節のあるリズムで歌われる。ニシン漁では、作業ごとに異なるうたが歌われてきたが、この「ソーラン節」は網の中のニシンを船に引き上げる「沖揚げ音頭」がもとになっている。音域は狭く、簡単な動機が繰り返されている。太鼓や三味線が伴奏楽器として使われる。児童には拍節のある民謡の特徴を感じ取らせたいと考え、選曲した。

(2) 「南部牛追い歌」 岩手県民謡

牛方が、牛の世話をするときや荷を運ぶ道中に歌った仕事うたで、拍のない自由なリズムで歌われる。牛方は、一人で7、8頭の牛を連れて峠を越えていたが、そのときに歌われていた「牛方歌」がもとになっている。音域が広く、言葉の最後の音を長く引きながら上下に動いて旋律に「あや」をつけて歌う。その繰り返しが大きなリズムを感じさせる。

尺八が伴奏楽器として使われる。児童には拍節のない民謡の特徴を感じ取らせたいと考え、選曲した。

(3) 「こきりこ」 富山県民謡 市川都志春 編曲

原曲は、富山県五箇山地方に伝わる民謡で、田楽（豊作を祈願する芸能）の中で歌われてきた。日本の音階でできている旋律は、日本らしい雰囲気醸し出す素朴で味わいのあるものである。スラーがかかっている歌詞の部分のをのびして歌うことで、民謡の節回しを意識して歌うことができる。また、副次的な旋律を重ねたり、簡単なリズム伴奏を付けたりして楽しみながら演奏できる。児童が、節回しを意識した歌唱の表現活動をしたり、五つの音でできている旋律に気付いたりできることから、選曲した。

(4) 『ミ ソ ラ 下 ㇿ の音でせんりつづくり』

五つの音を使い、リコーダーで試行錯誤しながら、日本の音楽の雰囲気醸し出す旋律をつくる教材である。個人でつくった旋律を友達とつなげることでまとまりのある音楽に仕上げることができる。五つの音を使って試行錯誤しながら旋律づくりをすることで、無意識のうちに日本の音階に親しめるとともに、今まで学習した繰り返しや変化などの音楽の仕組みや要素を活用した音楽づくりができることからこの教材を選択した。

(5) 「さくら さくら」日本古謡 浦田健次郎 編曲

もともとは箏のための曲である。旋律は、日本の音階でつくられている。箏の入門曲として江戸時代から伝えられてきた旋律に歌詞が付けられた。現在の歌詞は、昭和16年、口語体に改作されたものである。「こきりこ」とは感じの違う、日本の音階でできている旋律の特徴を感じ取らせたいと考え、選曲した。

(6) 「さくら変奏曲」宮城道雄 作曲

日本古謡の「さくら さくら」を主題とした変奏曲で、箏の三重奏によって演奏される。箏の音色を感じ取らせたいと考え、選曲した。

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体的な学習活動

指導事項	歌唱イ・・・・・・・・歌唱の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。 音楽づくりイ・・・・音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。 鑑賞イ・・・・・・・・音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。				
〔共通事項〕ア	音色	リズム	拍の流れ	旋律	音階
イ				反復 変化	
具体的な学習活動	・箏の音色や響きを味わわせ歌唱への意欲が高まるようにする。	・手拍子を打ちながら2曲を聴き比べリズムの違いを感じ取る。	・クラベスで拍打ちをし、拍の流れのって演奏できるようにする。	・2曲のはじめの部分の旋律の動きを線で描き旋律の特徴を感じ取る。 ・グループのメンバーがつくった旋律から2つか3つを選び、繰り返したり、変化させたりして、12小節の音楽をつくる。 ・日本語の美しさや日本の旋律の感じを生かし歌う。	・「こきりこ」を歌ったり楽譜を見たりして、主な旋律や副次的な旋律に使われている音は五つの音であることに気付く。
	・五つの音（ミソラドレ）を使って旋律づくりをする。				

6 題材の評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
題材の評価規準	①郷土の音楽に興味・関心をもち、楽曲の特徴に気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ②郷土の音楽やその曲想に興味・関心をもち、それにふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。 ③郷土の音楽に興味・関心をもち、リ	①旋律、リズム、音階、拍の流れなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、リズムや音の組合せを工夫し、どのような旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 ②旋律、リズム、音階、拍の流れ、反復、変化などを聴き取り、それらの	①日本語の発音や呼吸の仕方に気を付けて日本の音楽の特徴を生かした自然で無理のない声で歌っている。 ②五つの音を使って簡単な旋律をつくっている。	①旋律、リズム、音階、拍の流れ、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気づき、味わって聴いている。

題材の評価規準	リズムや音を組合せて音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。	働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、リズム伴奏の組合せ方、リズムや音の組合せ方、音のつながりなどを工夫し、どのような音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。		
1時	①			①
2時	②		①	
3時	③			
4時		①	②	
5時		②		
6時		②		
7時	②		①	

7 指導と評価の計画（全7時間）

時	◆ねらい○学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
1	<p>◆「ソーラン節」と「南部牛追い歌」を聴いて、日本の民謡の歌声やリズム、旋律などの特徴や違いを感じ取る。</p> <p>○拍にのったリズムと拍のない自由なリズムの違いを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵や説明を見ずに「ソーラン節」を聴き、曲の感じや歌詞からわかったことなどを話し合う。 ・仕事から生まれた民謡であることを知りどんな仕事をするとき歌った歌なのかを想像する。 ・合いの手や掛け声を一緒に口ずさんだり手拍子をしたりしながら「ソーラン節」を聴く。 ・「南部牛追い歌」を聴き、どんな仕事をするとき歌っていたものか想像する。 <p>・手拍子を打ちながら2曲を聴き比べ、リズムの違いを感じ取る。</p> <p>・2曲のはじめの部分の旋律の動きを線で描き、旋律の特徴を感じ取る。</p>	<p>○挿絵や説明を見せないことで、音楽や歌詞に集中して聴けるようにする。</p> <p>○歌詞の内容や合いの手から、ニシン漁の作業から生まれた歌だということに気付けるようにする。</p> <p>○合いの手や掛け声を一緒に口ずさんだり、手拍子をしたりしながら聴くことで、力を合わせて作業をしていることを感じ取れるようにする。</p> <p>○「ソーラン節」と比べさせることで、多くの人で力を合わせる作業ではないことに気付けるようにする。</p> <p>○牛追いという仕事について説明し、仕事の様子を想像できるようにする。</p> <p>○手拍子を打つことによって、拍にのったリズムと拍のない自由なリズムの違いに気付けるようにする。</p> <p>○旋律の動きを線で描いたり一緒に口ずさんだりすることで、その特徴や母音をのばして声や旋律を揺らす歌い方などにも気付けるようにする。</p> <p>☆郷土の音楽に興味・関心をもち、楽曲の特徴に気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>（関① 行動観察・発言内容）</p>

		<p>☆旋律、リズム、音階、拍の流れ、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付き、味わって聴いている。</p> <p>(鑑① 活動観察・ワークシート)</p>
2	<p>◆日本の旋律の特徴を感じ取り、日本語の発音や呼吸の仕方に気を付けて、曲想にふさわしい自然で無理のない声で「こきりこ」を歌う。</p> <p>○日本の旋律や母音をのばした歌い方の特徴を感じ取って「こきりこ」歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ソーラン節」「南部牛追い歌」と比べながら「こきりこ」の範唱を聴く。 ・歌詞の意味や原曲について知る。 ・歌詞をのばして歌う部分や息つぎに気を付けて主な旋律を歌い、曲の雰囲気にならぬ歌い方を工夫する。 ・囃しことばやリコーダーで副次的な旋律を演奏する。 ・主な旋律と副次的な旋律を重ね合わせて演奏する。 	<p>○前時の学習を振り返り、リズムや歌い方で似た特徴がないか見付けられるよう助言する。</p> <p>○田楽（豊作を祈願する芸能）の中で歌われてきたことや、こきりこやびんささらなどの楽器についても説明する。</p> <p>○母音をのばしている部分の歌い方や息継ぎ、速度や強弱を、範唱を聴いて確かめながら歌えるようにする。</p> <p>☆郷土の音楽やその曲想に興味・関心をもち、それにふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>(関② 表情観察・演奏観察)</p> <p>☆日本語の発音や呼吸の仕方に気を付けて、日本の音楽の特徴を生かした自然で無理のない声で歌っている。(技① 演奏聴取)</p>
3	<p>◆歌の旋律に合うリズムの組合せを工夫してリズム伴奏をつくり、それを演奏することで郷土の音楽の雰囲気を味わう。</p> <p>○歌の旋律に合うリズム伴奏をつくり、日本の民謡に合う響きの楽器を選んで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム伴奏のア、イ、ウの練習をする。 ・範奏を聴き、どんな楽器が曲の雰囲気に合うのかを話し合う。 ・グループに分かれ、楽器を選んで練習をする。 ・音の出し方や、始め方、終わり方の工夫をする。 ・つくったリズム伴奏を発表する。 	<p>○主な旋律に合わせて練習し、どのリズムがどの旋律に合うのか感じ取りながら練習できるようにする。</p> <p>○挿絵を参考に、皮の楽器、木の楽器、金属の楽器など音色の異なる打楽器を組み合わせるよう助言する。</p> <p>○掛け声や打楽器の合図で始めたり、終わりのリズムを工夫したりできるように助言する。</p> <p>☆郷土の音楽に興味・関心をもち、リズムや音を組合せて音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>(関③ 行動観察・演奏聴取)</p>
4	<p>◆五つの音でできた旋律が日本らしい雰囲気を醸し出していることを感じ取り、『ミ ソ ラ ドレ』の音を使って旋律をつくる。</p> <p>○五つの音を使って、旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こきりこ」の主な旋律や副次的な旋律 	<p>○旋律に使われている音が五つであることに気付か</p>

	<p>に使われている音は、五つであることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音符カードの組合せ例を見てリズム打ちをする。 ・ 音符カードを組み合わせて、4分の4拍子で2小節のリズムをつくる。 ・ 三つの音を使った例と五つの音を使った例の旋律をリコーダーで演奏し、日本らしい旋律の雰囲気を感じ取る。 ・ リコーダーで『ミ ソ ラ ド レ』の五つの音を確かめながら旋律をつくる。 ・ 使う音が決まったら、ワークシートに記入する。 ・ つくった旋律を、拍の流れにのって演奏できるようにリコーダーで練習する。 	<p>せ、その音階でできている旋律が日本らしい雰囲気を感じ取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音符カードと組合せ例を線でつないだり、リズム打ちをしたりして、リズムのつくり方を理解できるようにする。 ○ カードを何枚使ってもよいことや、2拍分のカードは小節線をまたがないことを伝える。 ○ 前時までの学習を振り返らせ、音があまり跳ばないようにするとつくりやすいことを助言する。 ○ 例を演奏し、『ラまたはレ』で終わるとまとまった感じがすることに気付かせる。 ○ 実際にリコーダーを吹いて試しながら気に入った旋律を見付けるよう助言する。 ○ 音を選ぶだけで簡単に旋律づくりができるようなワークシートを準備する。 ○ 選んだ音をリズムに当てはめて演奏できるように、机間指導をして拍を打ちながら児童のつくった旋律を聴く。 ☆ 旋律、リズム、音階、拍の流れなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、リズムや音の組合せを工夫し、どのような旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 （創① 行動観察・演奏聴取・ワークシート） ☆ 五つの音を使って簡単な旋律をつくっている。 （技② 演奏聴取・ワークシート）
<p>5 (本時) ※公開</p>	<p>◆ 日本の旋律の特徴を感じ取り、旋律の組合せ方やつなぎ方を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 旋律の組合せ方やつなぎ方を工夫してグループでまとまりのある音楽をつくる。 ・ 教師がリコーダーで演奏する旋律をまねて、「まねっこ遊び」をする。 ・ 自分のつくった旋律を演奏する。 ・ グループの友達と「まねっこ遊び」をする。 ・ グループの友達がつくった旋律から2つか3つを選び、組合せ方やつなぎ方を考える。 ・ つくった旋律の変化のさせ方を知る。 ・ グループの友達と組合せ方やつなぎ方の考えを伝え合い、演奏して試しながらグループで12小節の音楽をつくる。 ・ 中間発表を聴き、他のグループの演奏を参考にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書の旋律の例を何度も繰り返したり、少しずつ音を変えて演奏したりしてまねをさせることで遊びながら反復や変化を自然に学習できるようにする。 ○ どの旋律を組み合せたいか、どのような順でつなぎたいかを理由とともにワークシートに書かせることで、一人一人の思いが旋律づくりに生かせるようにする。 ○ つくりながら何度も演奏させることで、日本の旋律の特徴を感じ取れるようにする。 ☆ 旋律、リズム、音階、拍の流れ、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、リズム伴奏の組合せ方やリズム・音の組合せ方、音のつなぎ方などを工夫し、どのような音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 （創② 演奏聴取・ワークシート）

		<p>○旋律の組合せ方やつなぎ方の工夫に観点をおいて聴くよう助言する。</p>
6	<p>◆リズム伴奏や掛け声、合いの手をどのように加えるかについて思いや意図をもつ。</p> <p>○つくった音楽に、リズム伴奏や掛け声、合いの手を加え、発表して聴き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに日本の音楽の雰囲気醸し出すために、どのような工夫ができるかを話し合う。 ・話し合ったことをもとに、自分たちのグループでつくる音楽を工夫する。 ・グループで工夫してつくった音楽を拍の流れにのって演奏できるように練習する ・つくった音楽を発表して聴き合う。 ・他のグループの演奏を聴いて気付いたことや感想をワークシートに記入する。 	<p>○鑑賞や「こきりこ」の学習を振り返り、打楽器を加えることや掛け声や合いの手を入れるなどの工夫に気付かせる。</p> <p>○打楽器については、「こきりこ」のリズム伴奏や楽器を使って簡単に加えられるようにする。</p> <p>○演奏の練習をする過程で、さらに工夫を加えてもよいことを知らせる。</p> <p>○旋律の組合せ方やつなぎ方と、日本の音楽の雰囲気醸し出すための工夫に観点をおいて聴くよう助言する。</p> <p>☆旋律、リズム、音階、拍の流れ、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、リズム伴奏の組合せ方やリズム・音の組合せ方、音のつなぎ方などを工夫し、どのような音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>(創② 発言の内容 演奏の聴取 ワークシート)</p>
7 (撮影のみ) ※非公開	<p>◆旋律や歌詞の内容から日本の音楽の特徴を感じ取りながら、日本語の発音や呼吸の仕方に気を付けて、自然で無理のない声で「さくら さくら」を歌う。</p> <p>○「さくら さくら」の歌詞の美しさや日本の旋律の感じを生かして歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて曲の感じをつかむ。 ・歌詞を音読し、難しい言葉の意味を確かめる。 ・フレーズごとに歌詞唱をする。 ・情景を想像しながら歌う。 ・鑑賞曲「さくら さくら」を箏の音色を味わいながら聴く。 ・箏の伴奏で「さくら さくら」を歌う。 ・歌詞や旋律にふさわしい歌い方の工夫を話し合う。 ・話し合ったことを表現しながら、箏の伴奏で歌う。 	<p>○楽譜を見ながら聴き、日本の音階であることに気付くようにする。</p> <p>○歌詞の内容を理解させ、その美しさを感じ取って情景を思い浮かべられるようにする。</p> <p>○フレーズの終わりを意識して、丁寧に歌うよう促す。</p> <p>○児童自身の体験を思い起こさせたり、教科書や用意したの写真を参考にしたりして、想像豊かに歌えるようにする。</p> <p>○箏の音色や響きを味わわせ、歌唱への意欲が高まるようにする。</p> <p>○箏の伴奏で歌うことで、より日本の音楽のよさを感じながら想像豊かに歌えるようにする</p> <p>○歌詞の内容を考えたり、旋律の繰り返しに気付かせたりして、強弱や速さに視点を当てて話し合えるようにする。</p> <p>☆郷土の音楽やその曲想に興味・関心をもち、それにふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>(関② 表情観察・演奏観察)</p>

		☆日本語の発音や呼吸の仕方に気を付けて、日本の音楽の特徴を生かした自然で無理のない声で歌っている。(技① 演奏聴取)
--	--	--

8 学習指導について

(1) 授業実施日(公開) 平成27年10月27日(火) 第5校時 (5/7校時)

ア 本時の目標

日本の旋律の特徴を感じ取り、旋律の組合せ方やつなぎ方を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

イ 展開

○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
<p>○旋律の組合せ方やつなぎ方を工夫して、グループでまとまりのある音楽をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習のめあて 日本の音楽の雰囲気を感じてグループでまとまりのある音楽をつくろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がリコーダーで演奏する旋律をまねて、「まねっこ遊び」をする。 ・自分のつくった旋律を演奏する。 ・グループの友達と「まねっこ遊び」をする。 ・グループの友達がつくった旋律から2つか3つを選び、組合せ方やつなぎ方を考える。 ・つくった旋律の変化のさせ方を知る。 ・グループの友達と組合せ方やつなぎ方の考えを伝え合い、演奏して試しながらグループで12小節の音楽をつくる。 <p>(例) ① AA→BB→AA ② AA→BB→CC ③ AA' →BB' →AA' ④ AA' →BB' →CC'</p>	<p>○教科書の旋律の例を何度も繰り返したり、少しずつ音を変えて演奏したりしてまねをさせることで遊びながら反復や変化を自然に学習できるようにする。</p> <p>○クラベスで拍打ちをし、拍の流れにのって演奏できるようにする。</p> <p>○グループの友達の旋律をまねて演奏させることでこの後の音楽づくりのための旋律選びにつなげられるようにする。</p> <p>○どの旋律を組合せたいか、どのような順でつなぎたいかを理由とともにワークシートに書かせることで、一人一人の思いが旋律づくりに生かせるようにする。</p> <p>○教科書の旋律を例にあげて、繰り返しや変化のさせかたを理解させる。</p> <p>○つくった旋律を繰り返したり変化させたりすることで、まとまりのある音楽になることに気付かせる。</p> <p>○友達の考えた組合せ方やつなぎ方を、何度も演奏して試しながらつくるよう助言する。</p> <p>○つくりながら何度も演奏させることで、日本の旋律の特徴を感じ取れるようにする。</p> <p>○旋律の音を変化させることで、動きのある旋律にしたり、音楽の最後は終わった感じにしたりできるよう助言する。</p> <p>☆旋律、リズム、音階、拍の流れ、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、リズム伴奏の組合せ方やリズム・音の組合せ方、音のつなぎ方などを工夫し、どのような音楽をつくるかについて思いや</p>

<p>・ 中間発表を聴き、他のグループの演奏を参考に にする。</p>	<p>意図をもっている。 (創②話し合いの観察・演奏聴取・ワークシート) ○旋律の組合せ方やつなぎ方の工夫に観点をおいて 聴くよう助言する。 ○児童のワークシートをプロジェクターに映して、 演奏だけでなく視覚的にも工夫したことがわかる ようにする。</p>
---	--

<p>「十分満足できる」(A)と判断される状況 ○旋律の組合せやつなぎ方について、自分の思いや意図をまとまりのある音楽になる理由とともに ワークシートに書いている。 ○グループの友達に自分の考えを積極的に伝えて話し合いをしたり、リコーダーで何度も演奏して 試したりしながら音楽づくりをしている。 「努力を要する」(C)と判断される状況への働きかけ ○自分の旋律の変化のさせ方について、教科書の旋律を使って例を示すことで理解できるようにす る。 ○友達の旋律を聴いて、似ている旋律や全く違う旋律があることに気付かせ、どのように組合せた いか思いをもてるようにする。</p>

ウ 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">日本の音楽の雰囲気を感じてグループでまとまりの ある音楽をつくろう</div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">教科書の旋律の例 (拡大譜)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">旋律の変化の例</div>	<p style="text-align: center;">グループの音楽づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 友達の旋律の中から2つか3つの旋律を選ぶ。 ② 選んだ旋律のつなぎ方(順番)を考える。 ③ 旋律をくり返したり変化させたりしながらグルー プの音楽をつくる。 <p style="margin-top: 20px;">(例) ① A A → B B → A A ② A A → B B → C C ③ A A' → B B' → A A' ④ A A' → B B' → C C'</p>

(2) 授業実施日 (非公開) 平成27年10月30日 (金) 第5校時 (7/7校時)

ア 本時の目標

旋律や歌詞の内容から日本の音楽の特徴を感じ取りながら、日本語の発音や呼吸の仕方に気を付けて、自然で無理のない声で「さくら さくら」を歌う。

イ 展開

○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
<p>○「さくら さくら」の歌詞の美しさや日本の旋律の感じを生かして歌う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習のめあて 日本語の美しさや日本の旋律の感じを生かして歌おう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴いて曲の感じをつかむ。 ・ 歌詞を音読し難しい言葉の意味を確かめる。 ・ フレーズごとに歌詞唱をする。 ・ 情景を想像しながら歌う。 ・ 鑑賞曲「さくら さくら」を聴く。 ・ 実際の箏を見たり、音を聴いたりする。 ・ 箏の演奏とともに「さくら さくら」を歌う。 ・ 歌詞や旋律にふさわしい歌い方の工夫を話し合う。 ・ 拡大譜を見ながら話し合った工夫を表現できるように歌う。 ・ 「さくら さくら」を、箏の演奏とともに表現の工夫をしながら歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽譜を見ながら聴き、日本の音階であることに気付けるようにする。 ○歌詞の内容を理解させ、その美しさを感じ取って情景を思い浮かべられるようにする。 ○旋律をピアノで弾きながら音を取り、フレーズの終わりを意識して丁寧に歌うよう促す。 ○児童自身の体験を思い起こさせたり、教科書や用意した写真を参考にしたりして、想像豊かに歌えるようにする。 ○箏の音色を聴いたり、演奏する様子を見たりして歌唱への意欲が高まるようにする。 ○箏について簡単に説明し、楽器の仕組みや演奏の仕方に関心をもたせる。 ○箏の演奏とともに歌うことで、より日本の音楽のよさを感じながら想像豊かに歌えるようにする。 ○歌詞の内容を考えさせたり、旋律のくり返しに気付かせたりして、強弱や速さに視点を当てて話し合えるようにする。 ○工夫したことを実際に歌って試しながら話し合いを進めていく。 ○児童が話し合ったことを拡大譜に書き込み、児童の思いや意図を共有しながら歌えるようにする。 ○箏の音色を聴きながら歌い、日本の音楽のよさや美しさを感じ取れるようにする。 <p>☆郷土の音楽やその曲想に興味・関心を持ち、それにふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>(関② 表情観察・演奏観察)</p> <p>☆日本語の発音や呼吸の仕方に気を付けて、日本の音楽の特徴を生かした自然で無理のない声で歌っている。(技① 演奏聴取)</p>

「十分満足できる」(A)と判断される状況

○歌詞や旋律から想像したことを積極的に発表したり、歌い方の工夫についての自分の思いや意図をわかりやすく友達に伝えたりしている。

- 話し合ったことを生かして表現の工夫をしながら歌っている。
- 「努力を要する」(C)と判断される状況への働きかけ
- 工夫したいことを実際に歌って確かめながら話し合いを進める。
- 話し合ったことを拡大譜に記入し、それをよく見ながら歌えるようにする。

ウ 板書計画

日本語の美しさや日本の旋律の感じを生かして歌おう

さくらの写真

「さくら さくら」
拡大譜

(児童の考えを書き込む)

箏について

- 13本のげん
- つめでげんをはじく
- 音の特徴
 - ・自然な感じの音
 - ・演奏の仕方で音が変わる